

監視員さんに聞きました



今年の海はこれでOK!!

動じない秘訣教えます

海に着いたら

●まずは遊泳旗の色

監視所の近くにある遊泳

旗の色を確認しましょう。



天候次第で変わるので注視してください。放送も随時入るので、聞き逃さないようにしましょう。

「青」は遊泳可。

「黄」は遊泳注意。波や風が強い、濃霧注意報や雷注意報が出ているなど、海の状態が変りやすい日です。腰より深いところへは行かないようにしてください。

「赤」は遊泳禁止。非常に波が高いなど危険なので、砂浜で遊ぶようにしてください。

町では、人出の多い七、八月に、泳いだり砂で遊んだりでき、比較的波の少ない浜辺に海水浴場を設置します。具体的には、遊泳区域や監視所を設置され、海の家が建ちます。

また、毎日、海岸清掃もされています。遊泳区域は、森戸、一色、長者ヶ崎の三か所の海岸にあります。大浜海岸はマリンスポーツエリアです。

区別するのは、遊泳者が他の水面利用者からは非常に見えづらから。むやみに遊泳区域外で遊泳することは、事故にもつながります。

海は楽しさと危険が紙一重の場所です。楽しく快適に過ごすには、実は海の専門家などリスクマネジメントができる人と一緒にいるのがいいのですが、一人ひとりが専門家に近い知識や注意ができればいいわけです。みなさんはいかがでしょうか。



海の家7軒



●監視員はどこ？

赤と黄色のキャップやウェアを着た監視員が、監視所や水際で、みなさんが安全に海を楽しめるようスタンバイしています。注意を受けた場合は必ず言われたとおりにしましょう。街中では何んでもなくとも海では危険だからです。



監視所には、看護師もいます。何かあったときには監視所を訪ねましょう。

ではさっそく海へ

葉山の海は、砂浜と岩礁が交互に連なり、全国でもとても美しく豊かな場所です。

浜で昼寝をするのもよし、砂で遊ぶのもよし、沖まで泳ぐのもよし、ボートで行くのもよし。

遊泳区域内にもさまざまな生き物がいます。黄色と黒の横じま模様のカゴカキダイ、ブルーのソラスズメダイなどカラフルな魚を見つけるのも楽しいでしょう。でも……。

**ちょっと待って！
それは危険！！**

●飲酒

溺死や意識障害に至るような重大な事故の大半が飲酒によるものです。



浜辺の高い気温と強い日差しで、普段よりアルコールの回りが速く、体内のアルコール濃度も高くなります。アルコールを水代わりに飲み過ぎない。飲んだら海に入らない。必ず守りましょう。

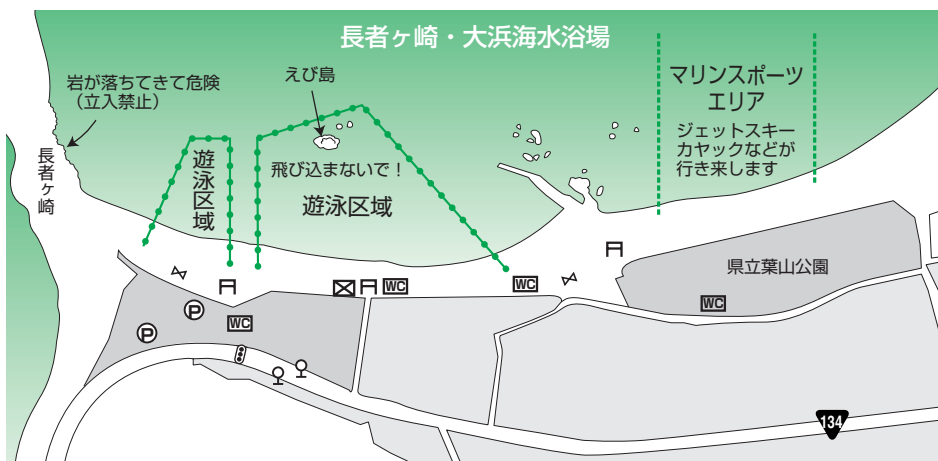
●小さいお子さんだけ

小学校低学年以下の小さいお子さんと一緒にいない親御さんが多く見受けられます。水際ではくるぶしぐらいでも、沖に向かっていると、いきなり大人の腹くらいの水深になることもありま



す。小さなお子さんでは、目を離れたときに、浮き輪をすり抜けておぼれる可能性も。

お母さんは洋服を着て浜に座っていたり、お兄ちゃんたちが見ているから平気！と考えていたり、お父さん一人が子ども五人と遊んでいたというの、実は非常に危険なのです。お子さん一人に保護者が一人ついて、すぐ手の届く場所で見守ってください。



凡例

- ☒ 監視所 (近くに監視旗があります)
- WC トイレ
- F 案内板 (海・浜のルールを確認できます)
- ☒ 放送塔

注

遊泳区域の近くは徐行エリア (最微速で運航するエリア) です。モーターボート、マリンジェットを使用する際は安全航行を心がけましょう。

●熱射病・熱中症

浜では汗がすぐに蒸発し

てしまうので、汗をかいた実感がないまま脱水症状を起こすことがよくあります。ただの水を飲んでいると体内塩分が薄くなり、余計にのどが渇くという感覚がなくなり、スポーツドリンクをこまめに取るようにしましょう。

小さなお子さんは、のどが渇いたという自覚がありません。たとえ嫌がってもきちんと水分を取らせてください。



●飛び込み

防波堤や岩場から飛び込

む人をよく見かけますが、海の中の岩場の形状や潮の干満により水深が異なるため、絶対に飛び込まないでください。



●助けてサイン

もしも、海で万が一困ったことおぼれそう、沖から帰れない、潮に流された、具合が悪

い、等々——があつたら、大きく両手をふりましょう。

これは、万国共通の「助けてサイン」です。



クラゲ

●アンドンクラゲ

傘高3～4㍎。海中にもぐっている。本種による被害が、三浦半島の海水浴場では圧倒的に多い。刺されるとミミズ腫れとなり激しく痛む。

応急処置：酢酸で洗い流すのが有効。



クラゲには、足(触手)に刺胞という注射針があり、足に触れると自動的に注射針が発射される。どのクラゲも注射針があるが、中でも腫れてしまうのがこの三つ。

予防するには：ラッシュガード(なければTシャツなど)で直接クラゲとの接触を避ける。

刺されてしまったら：まずは注射針(触手)を取り除く。痛いからといってこすらず、我慢して海水でよく流す。海水が最もクラゲの注射針を刺激せず洗い流せる。触手が見える場合はピンセットやガムテープなどで取り除いてもいい。その後は普通の虫刺されと同じように処置する。たくさん刺された場合は、30分ほど浜で休憩し、アナフィラキシー(急激に、アレルギー反応が出ること)の症状が出ないかどうかショック症状がないかを確認すること。人によってはひどく腫れるので、心配な場合は病院へ行く。

●カツオノエボシ

体長約20㍎。俗名「電気クラゲ」。烏帽子の形をした気泡(長径5～10㍎)が海面に浮いている。海岸に大量に打ち上がることもあるが触らない。刺されると激しく痛み数日間腫



れる。

応急処置：刺された場所を触らないように海水等でよく洗い流し、抗ヒスタミン剤をぬる。痛むときは鎮痛剤を用いる。

●アカクラゲ

直径20㍎程度の傘に放射状に赤い筋が入っており、長い触手がたくさんある。刺されると火傷に似た痛みが走り、みみず腫や水ぶくれになる。



応急処置：刺された場所を触らないように海水等でよく洗い流し、抗ヒスタミン剤をぬる。痛むときは鎮痛剤を用いる。

写真等：「水研だより」62号(徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所) 上田幸男著より



魚類

魚類は死んだものでも毒が残っているため、浜に打ち上がっているものを触るのは危険。

●ゴンズイ

全長20㍎前後の大型の個体に注意。背びれ、胸びれに強力な毒トゲがあり、刺されるとガラスを踏んだようなものすごい痛みを感じる。



応急処置：刺された場所の血を外に出し、体の低い位置にする。傷口を真水でよく洗い、やけどをしない程度の湯につけるか、アンモニア水を塗ると痛みが一時的に和らぐ。病院へ行くか、重症の場合は119番する。

●ハオコゼ

体長5㍎前後。背びれに多数の毒トゲがある。



磯に多い。

応急処置：アンモニア水をぬるとよい。

●アカエイ

体長60㍎前後。尾びれの途中に強力な毒トゲが一本ある。



応急処置：痛みがひどい時は病院へ。

タコ

●ガンガゼ

殻径7㍎前後、トゲの長さは20㍎になる。トゲが刺さると激痛が走る。筋肉が麻痺し呼吸困難になることも。

応急処置：トゲをできるだけ取る。

岩場で遊ぶ場合は、マリンシューズなどをはく。ビーチサンダルは、ぬれて滑るので危険。ウニのトゲは、つり針の返しと同じような構造で、簡単に取れない場合もある。深く刺さってしまった場合は病院へ行く。

ウニ



●ヒョウモンダコ

全長10㍎程度。海水温の高いときにまれに見る。棒などで刺激すると興奮してコバルト色の筋が現れる。かまれると筋肉麻痺、吐き気などが起き、最悪の場合は呼吸麻痺で死亡することもある。

応急処置：かまれた箇所を絞ったり切開したりして毒を出す。すぐに病院へ行く。



みんなの海だから

葉山の海には人も生き物もたくさんいます。

●何かに刺された!?

遭遇するといふ思いをし
ない生き物が、遊泳区域内
にもいます。



ただし、生き物は自ら攻撃するこ
とはなく、自己防衛のためにしてい
るだけです。

刺されて、腫れたときの対処方法
を覚えておきましょう。

または、海水浴場内の監視所へ。

看護師も常駐しており、簡単な処置
を受けられます。

●我が家の愛犬

海岸で散歩をしている姿
をよく見かけます。うちの



子は大丈夫というのではなく、どん
なに小さくても大人しくても、犬が
怖い人も多くいます。必ずコント
ロールできる長さのリードでつな
がなくてはなりません。衛生上の理由
から、遊泳区域に犬を入れることも
いけません。

フンも埋めるのではなく、必ず持ち
帰ってください。踏んでしまいます。

●バーベキュー

人が多い場所でのバーベ
キューはご遠慮ください。



また、燃え残った炭を砂に埋めて
帰ってはいけません。他の人が踏ん
で火傷をすることもあります。

油で汚れた食器類を海水で洗うの
もやめましょう。

葉山町では直火(砂場や岩場に直
接炭やマキを置いて火をつけるこ
と)は禁止です。バーベキューセツ
トなどを利用してください。

海から帰るとき

●ごみ

ごみは持ち帰りましょ
う。埋めるなんて言語道断
です。絶対にやめてください。



持ち帰りが難しい場合は、きちん
と分別してゴミ箱へ入れてください。
八月十七日まで毎日ビーチクリー
ンの時間があります。ふるってご参
加ください。

きれいな海でまた
お会いしましょう!

多くの方が安心して海で過ごせるように みんなが“ライフセーバー”になるといい



「海を甘く見ない、決して
無理をしない。そしてルール
やマナーを守り、楽しく安全
に葉山の海を満喫して欲しい。」と、日焼けした顔で語る
ライフガードの加藤智美さん
(葉山ライフセービングクラ
ブ統括責任者。写真)。赤と

黄色のユニフォームが、人ごみの中でも目を引きま

す。クラブでは、豊富な海の知識やレスキュースキルのある人、注意喚起などを中心にする人、ゴミ拾いをする人など、色々なポジションで参加している人がいます。また町内外から、高校生、大学生、社会人までだれでも参加できます。

「葉山の人の、うちのクラブにぜひ入ってほしいです。冬でもトレーニングしたり合宿をしたり、楽しいですよ。

でも一番いいのは、葉山
の人がみんなライフセー
バーと同じくらい海の知識
があること。みんながライ
フセーバーになれば監視員
はいらないくらいですら
ら。」



監視員の1日

森戸、一色、長者ヶ崎・大浜の各海水浴場には、“海開き”期間中の8月末まで監視所が設けられ、「葉山ライフセービングクラブ」に所属する皆さんが活動しています。

☆

監視業務は午前8時半から。それぞれ担当の監視所に“出勤”して、遊泳旗の準備や緊急用通路の確保、海に入っ

た水温、水底チェックなど、事前準備を済ませます。

主な仕事は、監視と救命活動です。
高い場所や砂浜を歩きながら、海水浴場全体を監視しています。

事故を未然に防ぐため、疲れている人、迷子、迷惑行為がないか見てまわり、発見した場合は近くまで行って声を掛けます。足元にも注意して、ガラスの破片など危険物があれば除去します。

また、海でおぼれた人がいれば、直ちに救助に向かい、海中から引き上げて人工呼吸や心臓マッサージをすることも。

このほか軽いケガなどの応急処置、注意喚起のための定期放送など、夕方5時まで活動して回ります。